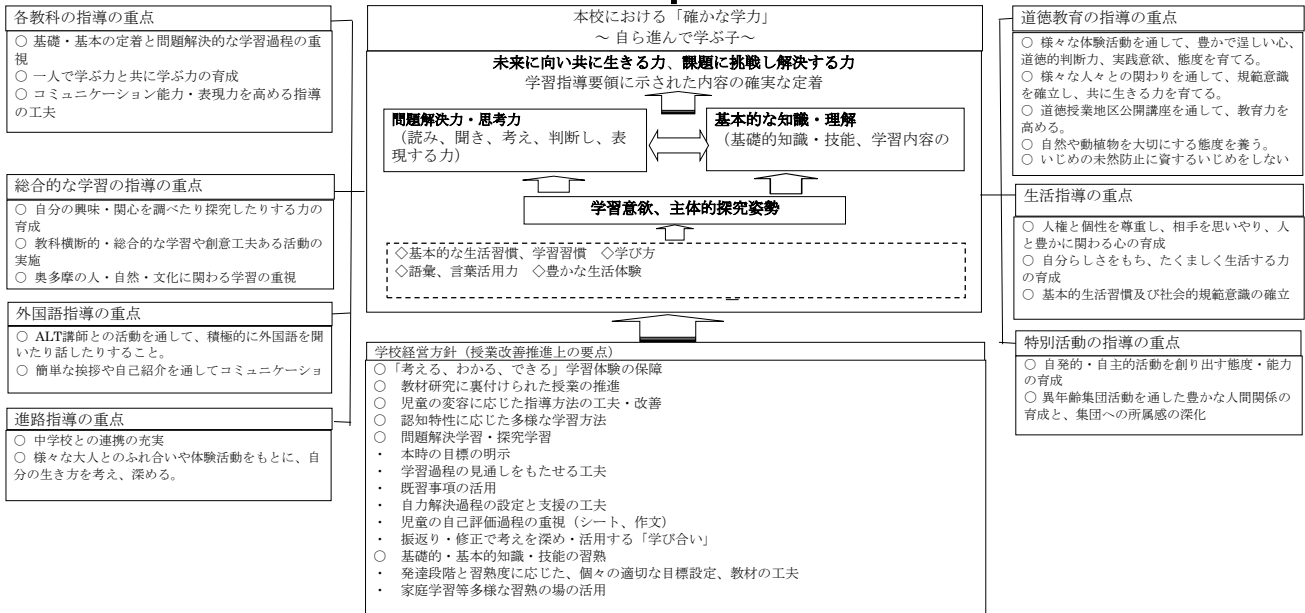
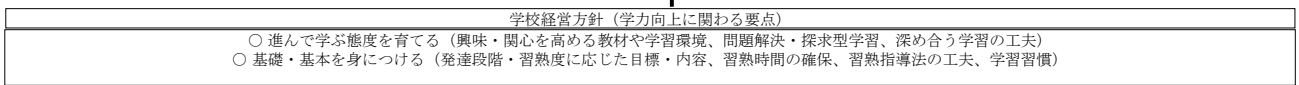
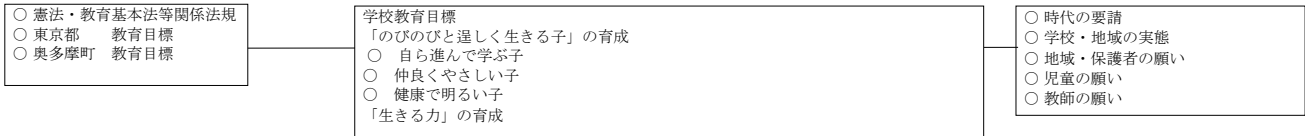


平成28年度学力向上を図るための全体計画

(奥多摩町立水川小学校)



本校の授業改善に向けた視点 ③は重点項目			
指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	校内における研究・研修の工夫
◎読解力の向上 ◎ICTの推進（タブレット・eライブラリー等） ◎体力向上（一学級一取組の実践・運動の日常化・体育授業の改善） ◎個に応じた課題の習熟の工夫（ペーシックドリル・eライブラリー等の活用） ◎自力解決・学び合いによる深め合い ◎児童の自己評価・相互評価（振り返りの力） ◎本時のめあての明示 ◎ノート指導の徹底 ◎教育・図書支援員の意図的な有効活用 ◎読み解き力が向上する授業	◎個に応じた学力診断調査による実態把握 ◎観点別評価（1時間1観点） ◎形成的評価による、指導と評価の一体化 ◎評価規準に基づく評価 ◎PDCAに基づく評価サイクルの確立	◎進度に合わせた学習プリントの作成 ◎家庭学習習慣の形成（音読・漢字練習・計算練習等） ◎外部講師の招聘・活用 ◎保護者の授業参加 ◎保護者との連携指導 ◎教育相談室・特別支援心理士等との連携	◎考える道徳・議論する道徳の推進 ◎実践授業・検証 ◎道徳の新しい価値項目への対応 ◎教材・教具づくり（含デジタル化） ◎外部研修成果の還元 ◎言語能力向上 ◎OJTの推進 教育課程編成上の工夫 ◎オリバ教育の推進 ◎学校図書館の活用 ◎チャレンジタイムの工夫 ◎サマースクール（3～6年）の実施

国語	年	具体的な授業改善策 (ICT機器・タブレット端末の活用、オリビック・パラビック教育との関連を含む)		評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法)	
		1年	・作文指導やノート指導を通して動詞や助詞、促音などひらがなカタカナで正しく使えるようにし、漢字の正しい使い方を繰り返し指導していく。 ・小テストを行い、ひらがなやカタカナや漢字の習熟を図る。 ・教科書に出てくるものはできるだけ具体物を提示し、難しい時は図鑑やタブレットなどで提示する。 ・漢字やカタカナの学習の際、日本の文化としての成り立ちなどにも着目させる。	・原書の相互評価の活用。 ・単元ごとのテストだけでなく小テストを活用。 ・CDTテストを活用した学習達成度の把握。 ・作文、ノートによる評価。	
2年	・書く機会を増やすとともに、文章の構成にも着目させる。 ・発表、聞き方、メモの取り方の指導を随時行っていく。 ・1回による動のスピーチで話す機会の増強。 ・タブレット端末やPCのデジタルコンテンツを活用することで視覚に訴えた授業を行い、理解を深めさせる。 ・漢字やカタカナの学習の際、日本の文化としての成り立ちなどにも着目させる。	・振り返りカードや自己評価カードの活用。 ・児童の相互評価の活用。 ・補助簿の活用。 ・教員からキーワードを見つける過程を評価し、意欲的に課題に取り組む姿勢を身に付けさせる。			
3年	・読み取りのめあてをはっきりさせ、個からグループそして全体へと広げていく授業形態で読みを深めさせていく。 ・漢字や語句、文法に関する事項等の基礎的基本的な学習を継続する。 ・他の国に伝わる物語単元から、世界の文化や風土について理解できるようにする。(オリビック・パラビック教育) ・ローマ字学習の定着にタブレット端末を活用する。 ・eライブラリを活用し、習熟を図る。	・振り返りカードや自己評価カードの活用。 ・児童の相互評価の活用。 ・友達の良い意見をノートに写し、心情的読み取り方を理解できるようにしていく。 ・ワークシートを活用した客観的評価。			
4年	・ICT機器・タブレット端末を用いながら、即座に「視覚化」、「動作化」、「共有化」できるような学習活動に取り入れる。 ・各単元(特に説明的な文章)において単元を貫く言語活動を行うことで、活用する力を育む。 ・読む、書く、聞くの日常的な活用の場を設ける。(日記、毎朝のスピーチ、音読、辞書) ・図書教諭と連携しながら読書を楽しむ。(物語だけではなく、生活科と関連づけながら科学読み物を読む機会を増やす) ・説明文や読書においてオリビック、パラビックに関連させながら学習を展開していく。	・振り返りカードや自己評価カードの活用。 ・単元ごとのテストだけでなく小テストを活用。 ・CDTテストを活用した学習達成度の把握 ・補助簿(道楽簿やリンク)の活用。			
5年	・グループや学級全体で考えるための個人の意見や考えをもたせるために、一人一人の課題を見極める。 ・文章から適確に読み取らせるために、表現方法に注目させた場面をしばしば注目させたりする指導をもとに展開する授業を計画する。 ・自分の考えをもたせ、その根拠や理由を明確にして伝え合う場面を設定する。 ・毎日の振り返りを中心に、書く活動を日常化し書くことへの慣れだけでなく、文章の技術も段階的に指導する。 ・漢字や言葉に関する学習を継続的に進め、語彙力をつける指導を工夫する。	・振り返りカードや自己評価カードの活用。 ・児童同士の相互評価。 ・学習計画をもとにした個人内評価。			
6年	・4年生から取り組んでいる学習の流れ、個からグループ、そして全体へと広げる授業展開の継続を基に、さらに個へ戻り、発展させていく授業の工夫をする。 ・自分の考えの基となる根拠や理由を明確にいくために、伝え合う場面の設定を多く取り入れる。また、互いの考えの良い点を認め合えるようなワークシートの工夫をしていく。 ・授業や行事、様々な取り組みに対する振り返りを中心に、書く活動を通して表現力の向上だけでなく、漢字や言葉を適切に使えるように取り組ませる。 ・漢字や言葉に関する学習を継続的に進め、語彙力をつける指導を工夫する。	・児童の実態に即した評価方法の改善と工夫 ・単元まとめの観点別到達度テストによる学習理解状況の把握 ・児童の発言やノート、ワークシートによる自己評価、相互評価の活用 ・自分の考えの基となる根拠や理由の明確化の把握 ・様々な学習場面での表現力の把握			
1年	・文章題に取り組み、キーワードに着目させたり、絵に表す等の指導をとおして、文章が表す状況を頭に思い浮かべながら読む力をつける。 ・ただ答えられるだけでなく、なぜその答えになったのかを説明することで自己の理解を深め、お互い学び合うようにする。 ・基礎的計算力などはチャレンジタイムを活用し、完全に習熟する。 ・eライブラリを活用し、習熟を図る。	・計算カードなどで繰り返し評価を行う。 ・児童の相互評価の活用。 ・CDTテストを活用した学習達成度の把握。			
2年	・多様な考え方ができ、課題解決力をつけることができる問題を用意する。 ・既習事項に繰り返し取り組み、理解を確実にする授業展開を図る。 ・文章題など図や数直線にし、イメージしやすくする。 ・タブレット端末やPCのデジタルコンテンツを活用することで視覚に訴えた授業を行い、理解を深めさせる。 ・時間や長さなどオリビック競技と関連させて興味や実感をもちさせる。 ・eライブラリを活用し、習熟を図る。	・評価規準の改善と工夫 ・単元まとめの観点別到達度テストによる学習理解状況の把握 ・計算ドリルや学習プリントの活用による学習の実施 ・児童の発言やノートによる評価の活用 ・CDTテストによる当該学年の学習達成度の把握			
3年	・図に表す力を育て、多角的に捉えさせる。 ・学び合いの場を設定し、自分の考えを発表する時間を設定する。 ・タブレット端末やPCのデジタルコンテンツを活用することで理解を深めさせる。 ・時間や長さなどオリビック競技と関連させて興味や実感をもちさせる。 ・eライブラリを活用し、習熟を図る。	・評価規準の改善と工夫 ・形成プリントやワークシートを活用した客観的評価。 ・学習意欲の向上を目指した形成的評価。 ・指導者間での評価の情報共有。 ・東京ペーシックドリルの診断テストによる評価の活用。			

算数	4年	・ICT機器を用いながら、即座に「視覚化」、「動作化」、「共有化」できるような学習活動に取り入れる。 ・図に表す力を育て、多角的に課題をとらえさせる。 ・授業時間以外での、個別指導・反復練習の継続。 ・学び合いの場を設定し、自分の考えを発表する時間を設ける。 ・タブレット競技で得られる小数を扱うことを通して、数の理解を深める。 ・e-ライブラリを活用し、習熟を図る。	・単元ごとのテストだけでなく小テストを活用。 ・CDTテストを活用した学習達成度の把握 ・補助簿(進捗簿)の活用		
	5年	・既習事項の復習に繰り返し取り組み、理解を確実にする。 ・東京ベシックドリルを活用して、個別支援の充実を図る。 ・図をもとに、数同士の関係性を理解させる。 ・ICT機器やタブレット端末を活用し、問題や個々のノートを提示し理解を深める。 ・e-ライブラリを活用し、習熟を図る。	・友達同士で教え合い、学習の理解度を相互評価させる。 ・算数検定やCDTテストによる当該学年の学習達成度の把握 ・東京ベシックドリルの診断テストによる評価の活用		
	6年	・既習事項に繰り返し取り組み、理解を確実にする授業展開を図る。 ・複眼的な計算力をつけるために、計算習熟の時間を継続して設ける。 ・自ら課題をもち、スモールステップで進めるための教材を準備する。 ・より高次な問題の提示や説明・表現方法の指導を行う。 ・東京ベシックドリルを活用して、個別支援の充実を図る。 ・図をもとに、数同士の関係性を理解させる。 ・ICT機器やタブレット端末を使って、デジタルコンテンツを活用することで理解を深める。 ・実物投影機を使って作業を見せる。 ・e-ライブラリの活用によって習熟を図る。	・児童の実態に即した評価方法の改善と工夫 ・単元まとめの観点別到達度テストによる学習理解状況の把握 ・計算ドリルや学習プリントの活用による学習の実施 ・児童の発言やノートによる評価の活用 ・算数検定やCDTテストによる当該学年の学習達成度の把握 ・都学力調査による前学年までの学習理解度の把握 ・東京ベシックドリルの診断テストによる評価の活用		
社会	3年	・児童の関心や意欲が高まる教材の提示をこころがける。 ・図を持って見学場所へ行き、資料となる画像(映像)を取らめく。それらをもとに学習に生かすことができるよう助言を行う。 ・日本の暮らしかを知らなくても、他の国々の生活についての理解を深める。(オリピック・パラリンピック教育) ・e-ライブラリを活用し、習熟を図る。	・調べ学習のまとめ(新聞作りなど)による評価。 ・ノートやワークシートによる自己評価の充実。 ・自作のワークシートを活用した客観的評価。 ・普段書かされたものまとめ方や分析、資料の見やすさ等も積極的に評価の対象とする。		
	4年	・ICT機器・タブレット端末を用いながら、即座に「視覚化」、「動作化」、「共有化」できるような学習活動に取り入れる。 ・児童の関心や意欲が高まる教材の提示をする。 ・児童が興味、関心をもって学習に取り組むことができる学習問題の工夫。 ・資料やグラフの読み取りの指導、調べ学習の時間の確保、調べ学習、まとめ学習の充実を図る。 ・適切なワークシートを作成する。 ・東京都において学習するときにオリピック・パラリンピックについても適宜ふれたい。	・評価規準の活用と改善 ・調べ学習のまとめ(レポートや新聞)による評価 ・ノートやワークシートによる自己評価の充実 ・CDTテストを活用した学習達成度の把握 ・補助簿(進捗簿)の活用		
	5年	・ICT機器やタブレット端末を使った資料の提示や資料をもとに説明したり考えを述べたりする活動を設定する。 ・課題解決学習を適切に実践していくために、社会事象に関する資料の読み取りから問題解決の予想を立て、それについて調べるといふ学習の流れを徹底する。 ・基礎的な知識を定着させるために、ワークシートを用いたり普段から社会事象への関心を高めるための工夫をする。 ・世界の国々への関心を高め、オリピックやパラリンピックへの関心をもちたせる。	・児童の実態に即した評価方法の改善と工夫 ・自分の考えを表現できているかをもとに、よいものを児童同士がどんどん真似していきけるよう紹介をしていく。		
	6年	・ICT機器やタブレット端末を使ったデジタル資料、図書館との連携による図書館資料を取り入れ、自ら課題解決に取り組める授業の工夫をする。 ・ワークシートやプリントをもとに知識を図る。 ・日本の戦後復興期の前東京オリンピックをもちにオリンピックやパラリンピックの歴史についても関心をもちたせる。	・児童の実態に即した評価方法の改善と工夫 ・単元まとめの観点別到達度テストによる学習理解状況の把握 ・児童の発言やノート、ワークシートによる自己評価、相互評価の活用 ・学習のまとめ方の工夫や適切な表現の工夫の把握		
	3年	・ICT機器やiPadを活用して実験結果の検証や調べ学習の一助とする。 ・体験的学習や観察実験による検証、科学的法則や自然現象のしくみや性質の学び合いを行う。 ・実験や観察を見通しをもって行うことができるようワークシートを工夫する。 ・植物や動物の観察を通して、環境についての理解を深める。(オリピック・パラリンピック教育) ・実験器具の使用方法など、安全指導を徹底する。	・実験や観察の記録をノートや観察カードにまとめ、児童が学習を振り返られるようにする。 ・普段書かされたものまとめ方や分析、資料の見やすさ等も積極的に評価の対象とする。 ・ワークシートを活用した客観的評価。		
	4年	・「視覚化」、「動作化」、「共有化」を学習活動に取り入れる。 ・実験器具の使用方法など、安全指導を徹底する。 ・仮説・実験等による検証、科学的法則や自然現象のしくみや性質の学び合いを行う。 ・実験や観察を見通しをもって行うことができるよう一貫したノート指導を行う。 ・タブレット端末を使って画像を映し、観察や検証に活用する。	・教材の操作に関する評価を実験・観察前に行う。 ・テストだけでなく、普段書かれたものまとめ方や分析、資料の見やすさ等も積極的に評価の対象とする。 ・CDTテストを活用した学習達成度の把握 ・補助簿(進捗簿)の活用		
5年	・適切な実験方法や実験器具の扱い方を指導し、安全の徹底を図る。 ・仮説・観察・実験等による検証・考察・結論の授業展開を基本とし、課題解決学習を徹底して行う。 ・実験や観察の結果から考察に至る部分について、一人一人が考え説明したり話し合ったりする活動を設定する。 ・ICT機器やタブレット端末の活用し、映像資料を適切に用いながら学習を図る。	・児童の実態に即した評価方法の改善と工夫 ・自分の考えを表現できているかをもとに、よいものを児童同士がどんどん真似していきけるよう紹介をしていく。			
6年	・仮説・観察・実験等による検証・考察・結論の授業展開を基本として、科学的法則や自然現象のしくみや性質を学ぶ授業の工夫をする。 ・体験的学習や観察実験による検証、科学的法則や自然現象のしくみや性質の学び合いを行う。 ・適切な実験方法や実験器具の扱い方を指導し、安全の徹底を図る。 ・ICTの活用による資料や映像資料の適切に提示して理解を深める工夫をする。	・児童の実態に即した評価方法の改善と工夫 ・単元まとめの観点別到達度テストによる学習理解状況の把握 ・児童の発言やノート、ワークシートによる自己評価、相互評価の活用 ・自分の考えの基になる根拠や理由の明確化の把握 ・安全な実験の方法や実験器具の取り扱いの把握			
理科	3年	・同じ運動に備ることなく、年間指導計画を基に計画的に授業を進めていく。 ・一学級一実践として大組に取り組み、全員で協力して記録を伸ばす喜びを伝える。 ・指先走カードなどを活用し、継続的に運動する習慣をつけることで体力向上を目指す。 ・1年生の導入などオリピックやパラリンピックの映像などを活用して運動への意欲を高める。 ・ゲームの目的を理解させるとともに、友達と協力することや相手尊重する機会を設ける。	・なわとびカードや記録カードを活用しての評価。 ・児童の相互評価の活用。 ・写真や動画を使っての評価。		
	4年	・運動の特性を把握させ、スモールステップで運動に取り組める場の工夫を行う。 ・一学級一実践として、持久走カードに取り組み、継続的に体力の向上を目指す。 ・学習資料をもとに個人のめあてを明確にし、運動の記録がわかる学習カードを工夫する。 ・タブレット端末やPCを活用することで視覚に訴える授業を行う。 ・速さや距離など自分の記録とオリピック競技と関連させて興味や意欲をもたせる。	・自己評価と児童の相互評価の活用。 ・学習カードや話し合い、視覚機器を使っての振り返りによる自己評価や相互評価の充実		
	5年	・体験差、体格差による技能の違いを、良い面を生かせるよう、教え合う活動を取り入れる。 ・タブレット端末で撮影し、自分のフォームを確認したり、デジタル教材を利用して技のコツを指めるよう工夫する。 ・3,4年生の合同学習を多く取り入れることにより、教え合い、学び合いのある学習を工夫する。 ・体ほくしの運動に柔軟体操を取り入れ、一学級一実践として継続して取り組むことで柔軟性を養う。 ・パラリンピック、パラリンピックの精神を応援、支援する。(オリピック・パラリンピック教育)	・児童が1時間毎に成長したところを認め合えるような学習カードを作成し、評価していく。 ・学び合いの場面を多く取り、友達の良い面や成長したところを認め合う時間を設ける。 ・自己肯定感を高め友達との関わりについても考えられるようにする。		
	4年	・ペアやグループで活動する時間を設け、学び合い、励まし合う機会をつくる。その際ICT機器を用いて、効果的に振り返らせる。 ・個人のめあてを明確にし、取り組む。 ・準備運動や整理運動の意味を意識して活動させる。 ・年間を通して、ジョギングやなわとびを実践していく。	・自己評価と児童の相互評価の活用。 ・補助簿(進捗簿)とリソンの活用。 ・写真や動画を見ての自己評価。		
	5年	・体力の向上を目指し、一学級一実践として動物走りの運動を毎時間取り入れ積極的に運動感覚を身につけさせる。 ・オリピック等で実施されるスポーツを授業で実践し、ゲームのルールや特性を視覚的に提示し、理解を促す。 ・様々な動きや運動を体験させ、運動の楽しさや気持ちよさを感ぜられるよう工夫し、自ら体力を高めようとする態度を育成する。	・学習カードをもとにした評価。 ・自己評価や相互評価の充実。		
	6年	・学習のめあてを明確にするとともに、個人のめあてや運動の記録がわかる学習カードを工夫する。 ・6年生との合同学習を中心に、より高いめあてで運動に取り組ませる。 ・運動の特性が理解できるようにICTの活用を図るとともに、スモールステップで運動に取り組める場の工夫をする。 ・オリピック、パラリンピックの実施競技について、その内容やルールなど理解する機会を設ける。	・児童の実態に即した評価方法の改善と工夫 ・学習カードや話し合い、振り返りによる自己評価、相互評価の充実 ・安全に運動したり、協力して準備や片付けをする態度の把握		
生活	1年	・周りの自然環境を生かした授業作り。 ・「よとこ」に気付けて記録した児童を取り上げて、学び合う機会を設ける。 ・授業ごとにワークシートを作成し、その時間のめあてが見通しよくわかりやすいようにする。	・発見カード、観察カードの活用。 ・児童の相互評価の活用。		
	2年	・「前探検」でアフリカの物を見つけた中で障害者についての理解を図る。 ・「前探検」でアフリカの物を見つけた中で障害者についての理解を図る。	・児童の相互評価の活用。 ・児童による自己評価や相互評価の活用。		
総合	3年	・1時間ごとのめあて、振り返りができる学習カードを工夫する。	・ポートフォリオを作成し、常に進捗状況を確かめたり、振り返りができるようにする。		
	4年	・それぞれの活動ごとにリーダーや実行委員を決め、全体的な計画の立案や細かい作業の指示など、必要な技能や課題にのぞむ姿勢や態度を身につけていくようにする。	・課題、めあてに対する学習の深まりを中心に、自己評価、相互評価を時間ごとに設定し、交流を深めるようにする。		
	5年	・日本や自分の住む地域の良さについて考える学習を取り入れる。 ・問題解決のためのアプローチの仕方、問題解決への計画の立て方などを日々の授業の中で身につけていくようにする。	・課題、めあてに対する自己評価、相互評価。		
	6年	・自ら課題を設定し、解決にむけた学習、まとめ、発表の授業スタイルを計画していく。 ・学習活動のめあてと振り返りができる学習カードを工夫する。 ・要約、まとめ、発表など、学習活動全般にわたって取り入れたい。	・課題やめあてに対する学習の深まり、活用を中心とした自己評価、相互評価の把握		
	1年	・自分のこととしてとらえやすい教材の開発。 ・副読本(わたしたちの道徳、心あかるく等)を活用し、自己の生活場と照らし合わせて考えさせる。	・ワークシートの活用。 ・児童の相互評価の活用。		
	2年	・考えや意見、議論する道徳について校内でも研究し、授業に活かす。 ・多様な意見や意見が出るような授業を展開する。	・日常の学級内での人間関係や学校活動全体を通して考えさせる中で、道徳性身につけさせる。 ・有名選手の語を取り上げ、オリピック、パラリンピックの精神を理解させる。(オリピック・パラリン)	・個人のことを全体で取り上げ、評価していくことで意識付けを行う。	
3年	・様々な場面での多様な考えを伝え合い、議論し、認め合えることができる雰囲気を作る。	・ワークシートを作成し、自分の考えを書いて確認できるように工夫を行う。 ・「道徳的価値」に合ったデジタルコンテンツを活用する。 ・より多くの道徳的価値に触れ、道徳性身につける。	・「道徳的価値」に合ったデジタルコンテンツを活用する。 ・より多くの道徳的価値に触れ、道徳性身につける。	・日常生活でも行っているワークシートを用い、それらを集めてコメントを記入する。	・日常生活でも行っているワークシートを用い、それらを集めてコメントを記入する。
4年	・児童が身近に感じられる題材の研究。	・モラルジレンマの教材を適宜取り入れ、児童同士の話し合いを促す。 ・ワークシートを取り組むと、ワークシートの成長を確認できるようにする。	・ワークシートの活用	・個人のことを全体で取り上げ、評価していくことで意識付けを行う。	

徳	5年	・副読本(わたしたちの道徳、心あかるく等)を活用し、自己の生活場面と照らし合わせて考え、議論させながら道徳的価値観を培う。		・道徳の授業を日常生活に生かすのではなく、日常生活を道徳に生かすことができるように、教材を工夫する。 ・日常の中で起こる様々な人との関わりを道徳として活かせるように、普段から豊富な教材のストックとしておくなどの準備を行い、議論を深めていく中で、生きた道徳としてクラス内に浸透していくような支援を行っている。	・オリンピック等で活躍している人物について知る活動を設定し、読めずにがんばる姿について考える。	・自分がどれだけ自分のことを振り返ることができたかを中心にした自己評価。		
	6年	・副読本(わたしたちの道徳、心あかるく等)を活用し、自己の生活場面と照らし合わせて考えさせる。		・授業展開では、ひとりひとりの考えを交流し合える時間の設定をし、道徳的価値についてより深められるよう内容、時間の配分を工夫する。	・道徳授業に対する意識の高まりの把握	・道徳的価値に対する意識の高まりの把握	・学校生活全体を通して、あらゆる場面で行動や活動の道徳性についての自己評価、相互評価の充実	
音楽	音楽の授業における指導の重点 ・身体全体で音楽を感じ、表現できるように教材開発、指導法の工夫 ・発声練習の系統的な指導法の工夫 ・ペア、パート練習の指導法の工夫とリーダーの育成							
	学年	指導の方法及び評価方法の課題	指導の改善策		評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法)			
	第1・2学年	・低学年に応じた発声練習の指導法の工夫。 (「自然で無理のない声」を出せるように) ・身体全体で音楽を感じ、表現できるように指導の工夫。	・「やまびこっこ」「かっこや」、日本や外国のわらべなど、歌うことで発声練習を兼ねる。(オリバラ教育) ・CDの範唱や交互唱などにより、互いの歌声をきき、良い歌声や歌い方に気付かせる。 ・タブレット端末からフルートコースでスピーカーから曲を流したり、中継器を経由してテレビ画面から画像を映したりして、視聴覚から興味をもたせる。 ・打楽器によるリズム遊びの指導。 ・個別指導の充実。		・グループ発表や学期末の歌唱テストにより評価する。 ・器楽は、毎時間個別指導する時間を確保し、児童の習熟や評価に役立てる。 ・鑑賞は、鑑賞態度や感想発表等により評価する。			
	第3・4学年	・中学年に応じた発声練習の指導法の工夫。 (「自然で無理のない声」を出せるように) ・教科書に沿って系統的な読譜指導をする。	・「元気に笑え」「ゆかいに歩け」など、歌うことで発声練習を兼ねる。 ・CDの範唱や交互唱などにより、互いの歌声をきき、良い歌声や歌い方に気付かせる。 ・タブレット端末からフルートコースでスピーカーから曲を流したり、中継器を経由してテレビ画面から画像を映したりして、視聴覚から興味をもたせる。 ・一人一人が楽器に名前をふり、階名唱をすることにより、階名に慣れ、音程の感覚を身に付ける。 ・リズムカードを使った指導。 ・個別指導の充実。 ・日本の伝統音楽や諸外国の民謡を鑑賞することにより、諸外国への興味をもたせる。(オリバラ教育)		・授業中の児童の様子や学期末の歌唱テストにより評価する。 ・器楽は、毎時間個別指導する時間を確保し、児童の習熟や評価に役立てる。 ・器楽は、パート練習での活動の自己評価と相互評価の活用 ・鑑賞は、鑑賞態度や感想発表、鑑賞カード等により評価する。			
	第5・6学年	・高学年に応じた発声練習の指導法の工夫 (「自然で無理のない声」を出せるように) ・教科書に沿って系統的な読譜指導をする。	・歌声であいさつを重ねていき(カデンツ)、お互いの声の響き合いを感じさせる。 ・「ゆかいに歩け」「ハロー」など、歌うことで発声練習を兼ねる。 ・スタカート、レガートなどの発声練習をする。 ・パート別に声を出し、お互いの歌声を聴きながら、歌う。 ・CDの範唱や交互唱などにより、互いの歌声をきき、良い歌声や歌い方に気付かせる。 ・タブレット端末からフルートコースでスピーカーから曲を流したり、中継器を経由してテレビ画面から動画(オーケストラ演奏など)を映したりして、視聴覚から理解を深める。 ・篠笛などの指笛などの動画やタブレット端末に取り込んで、児童がそれを見ながら練習する。 ・一人一人が楽器に名前をふり、階名唱をすることにより、階名に慣れ、音程の感覚を身に付ける。(ハ音記号の楽譜も含む) ・リズムカードを使った、合奏では自分で楽器を選んでの創作活動の指導 ・パートリーダーの育成 ・個別指導の充実		・授業中の児童の様子や学期末の歌唱テストにより評価する。 ・器楽は、毎時間個別指導する時間を確保し、児童の習熟や評価に役立てる。 ・器楽は、パート練習での活動の自己評価と相互評価の活用 ・鑑賞は、鑑賞態度や感想発表、鑑賞カード等により評価する。			
家庭	家庭の授業における指導の重点 ・学習意欲の高まるようなワークシートや学習カード、教材の工夫 ・ペアやグループでの児童相互の教え合いの重視							
	学年	指導の方法及び評価方法の課題	指導の改善策		評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法)			
	5年	・個々の課題を明確にし、個別指導を充実させる。 ・個々の課題に応じた具体的な評価方法の工夫。	・学習意欲が高まるようなワークシートや学習カード、教材を工夫し意欲の継続と理解の定着を図る。 ・ペアやグループでの児童相互の教え合いも重視する。 ・「ご飯とみそ汁の学習、調理実習(「食べて元氣」「ご飯とみそ汁)」では、日本の食文化に触れる。(オリバラ教育)		・單元ごとの評価規準に基づいて、観点別に評価する。 ・児童一人一人の課題に対する取り組み態度や発言、期末テスト、ワークシートや学習カードへの記述、作品の仕上がりなどから評価する。 ・実習では、反省カードで自己評価できるようにする。			
6年	・個々の課題を明確にし、個別指導を充実させる。 ・個々の課題に応じた具体的な評価方法の工夫。	・学習意欲が高まるようなワークシートや学習カード、教材を工夫し意欲の継続と理解の定着を図る。 ・ペアやグループでの児童相互の教え合いも重視する。 ・「まかせてね 今日食事」の学習で「食の自立を考える時、和食が栄養バランスや健康面から世界でも注目されていること」に触れる。(オリバラ教育) ・調べ学習や、レシピの検索にICT機器やタブレット端末を利用する。		・單元ごとの評価規準に基づいて、観点別に評価する。 ・児童一人一人の課題に対する取り組み態度や発言、期末テスト、ワークシートや学習カードへの記述、作品の仕上がりなどから評価する。 ・実習では、反省カードで自己評価できるようにする。				
図画工作	図画工作の授業における指導の重点							
	学年	指導の方法及び評価方法の課題	指導の改善策		評価に関する改善策 (評価規準・評価場面・評価方法)			
	第1・2学年	・身の回りの色や形をとらえる機会を増やし、自分なりのイメージや意味をもたせることでつくりだす喜びにつなげる。 ・自分の気持ちや感覚、操作や行為が一体となって技能を発揮していけるよう、材料の形や色、さらに手触りや弾力性、重さなどを体全体で感じさせる機会を増やす。 ・自分の思いや体全体の動きと手の操作との両方を運動させて、用具を用いたり、材料を扱ったりする活動を進める。 ・自分の思いを大切にしながら、適切に用具を使いながら、計画的に造形活動を進めていこうとする態度を育成する。 ・形や色によるコミュニケーションを通していろいろな人たちと交流することで造形的な資質を高める教材研究をする。 ・子どもの活動を様々な角度からとらえるような手段を確立していく。	・児童の生活に身近な題材を考え、常に色や形を意識させる指示を準備する。 ・造形遊びのなかで、人とかかわりを充実させる活動を取り入れる。 ・児童を認める声かけを多くしたり、友達に認めようということができるような発表の機会を多くする。 ・授業毎や学期末の振り返りを実施させ、自分の活動を文章で確認できるようにする。 ・鑑賞活動を充実させ、作品製作の意図や、構成などを表現させる機会を設ける。 ・実物投影機、ICT機器・タブレット端末を活用して作業の手順を提示する。 ・ICT機器・タブレット端末の活用し、オリンピックハラルティックの出場旗の国を始めとする他国の作品の鑑賞を行う。		・作品製作中の振り返りカードや、学期末の作品カードの自己評価、制作中の発言などを利用する。 ・鑑賞の時間を設定し、発言や名札の題名、友達への作品に対するコメントなどをつかい評価する。 ・展示の機会を設けて、外部の人たちにも作品を見てもらうことで、自分の作品を客観的にみる機会を設ける。			
	第3・4学年	・自分の思いや体全体の動きと手の操作との両方を運動させて、用具を用いたり、材料を扱ったりする活動を進める。 ・自分の思いを大切にしながら、適切に用具を使いながら、計画的に造形活動を進めていこうとする態度を育成する。 ・形や色によるコミュニケーションを通していろいろな人たちと交流することで造形的な資質を高める教材研究をする。 ・子どもの活動を様々な角度からとらえるような手段を確立していく。	・児童の生活に身近な題材を考え、常に色や形を意識させる指示を準備する。 ・造形遊びのなかで、人とかかわりを充実させるとともに物と場所にかかわれる活動を取り入れる。 ・児童を認める声かけを多くしたり、友達に認めようということができるような発表の機会を多くする。 ・授業毎や学期末の振り返りを実施させ、自分の活動を文章で確認できるようにする。 ・鑑賞活動を充実させ、作品製作の意図や、構成などを表現させる機会を設ける。 ・実物投影機、ICT機器・タブレット端末を活用して作業の手順を提示する。 ・ICT機器・タブレット端末の活用し、オリンピックハラルティックの出場旗の国を始めとする他国の作品の鑑賞を行う。		・作品製作中の振り返りカードや、学期末の作品カードの自己評価、制作中の発言などを利用する。 ・鑑賞の時間を設定し、発言や名札の題名、友達への作品に対するコメントなどをつかい評価する。 ・展示の機会を設けて、外部の人たちにも作品を見てもらうことで、自分の作品を客観的にみる機会を設ける。			
第5・6学年	・自分なりに納得のいく表現や鑑賞の活動を確保し、満足感味わうことのできる教材研究をする。 ・児童の活動を認めることのできる教材研究をする。 ・児童の活動を認める声かけを多くしたり、友達に認めようということができるような発表の機会を多くする。 ・授業毎や学期末の振り返りを実施させ、自分の活動を文章で確認できるようにする。 ・鑑賞活動を充実させ、作品製作の意図や、構成などを表現させる機会を設ける。 ・実物投影機、ICT機器・タブレット端末を活用して作業の手順を提示する。 ・ICT機器・タブレット端末の活用し、オリンピックハラルティックの出場旗の国を始めとする他国の作品の鑑賞を行う。	・社会に視野を向けた題材や場所・人にかかわる題材を考え、常に色や形を意識させる指示を準備する。 ・造形遊びや鑑賞活動のなかで、人とかかわりを充実させるとともに物と場所にかかわれる活動を取り入れる。 ・児童を認める声かけを多くしたり、友達に認めようということができるような発表の機会を多くする。 ・授業毎や学期末の振り返りを実施させ、自分の活動を文章で確認できるようにする。 ・鑑賞活動を充実させ、作品製作の意図や、構成などを表現させる機会を設ける。 ・実物投影機、ICT機器・タブレット端末を活用して作業の手順を提示する。 ・ICT機器・タブレット端末の活用し、オリンピックハラルティックの出場旗の国を始めとする他国の作品の鑑賞を行う。		・作品製作中の振り返りカードや、学期末の作品カードの自己評価、制作中の発言などを利用する。 ・鑑賞の時間を設定し、発言や名札の題名、友達への作品に対するコメントなどをつかい評価する。 ・展示の機会を設けて、外部の人たちにも作品を見てもらうことで、自分の作品を客観的にみる機会を設ける。				